

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①レポ

富江 文雄

7月17日(土)、ならやまのフィールドにおいて「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①」イベントを開催した。

奈良県が制定する「山と川の月間」中の協賛イベントだが、Green Gift 地球元気プログラムの正式イベントとして実施した。

子供17人、保護者16人、来賓2名、会員スタッフ26名の合計61人が参加した。一昨年まではお昼は飯盒炊爨(ハンゴウスイサン)もある一日の活動だったが、コロナ禍のために昨年(去年は当会独自の開催として実施)からは午前だけの活動となっている。

早朝7時半頃から会場の設営を始め、テントを張り、会の幟、GGの幟を立てて、ベンチを並べるとすっかり準備完了。8時半頃から到着し始めた参加者は、受け付けて体温測定、手の消毒、マスク着用の点検をして、それぞれの班別の色テープを貼ってもらう。



9時ちょうど、富井ならやま委員長の司会で開催セレモニーが始まり、会長、来賓の挨拶に続き、スケジュール、安全注意事項の説明を行い、活動開始。

前半は里地での活動で、植物観察と昆虫観察に分かれ、それぞれを交互に体験した。

昆虫観察では梅林を中心にして昆虫採取を行い、トンボ、蝶、バッタ等、沢山の虫を捕まえ、虫カゴに入れ、昆虫に詳しい菊川さんや木村さんに同定してもらっていた。



植物観察ではビオトープの近くで、桑の木、エノキ、睡蓮、蓮等の詳しい説明を聞き、実際に手を触れることで学ぶことが出来た。

後半は里山での活動で、自然観察と里山での遊びをそれぞれ交互に体験した。

自然観察では自然林の成り立ち、この山での特性等を学び、シイタケ栽培の榎場を見学してシイタケがどのようにして育つのか、興味深く説明を受けた。



遊びの森では、自然の樹木を利用したブランコ、木登り、丸太渡り、ミラーウオークの不思議な光景等、うっそうとした木々の中での遊びを満喫した。

里山での活動を終えてベースキャンプに戻ると、子供たちにはお土産として立派なカブトムシがプレゼントされた。これはベースキャンプ周辺の堆肥用土の中に、前年に成虫が産んだ幼虫を3月頃に掘り出し、会員有志が丹精を込めて成虫にしたものである。

最後に、来賓からのお礼に続いて会長の閉会の言葉があり、この日の活動が幕を閉じた。

梅雨の明けた炎天下での活動ではあったが、何一つ事故も起きず無事に終了できた。